



祖父の代から受け継ぐ 田んぼを守り さらに進化させていく



西米良は、その面積のおよそ96%を山林が占めています。この村では古くから、山を切り拓いてさまざまな作物を作ってきた歴史があり、田んぼもその一つに数えられます。今回お邪魔した田んぼは、生産者である桐山さんの祖父の代から受け継いできたもので、現在に至るまでずっと守り続けてきた場所でもあります。良い田んぼにするには、常に新しい技術を取り入れながら、より良い米作りを追求し続ける必要があります。桐山さんは日々専門誌に目を通すなどしながら、どうすればより良い米ができるのかを常に考え、新たなアイデアに挑戦する“研究者”でもあるのです。



水温管理から 獣害対策まで その仕事は年中続く



他の一次産業と同じように、米作りにも休みはありません。特に、標高の高い山を切り拓いて田んぼを作っている西米良では、米作りの要とも言える水を、いかにして引いてくるかが鍵になります。谷から水を引いてくるため、堰が水害で壊れれば自らの手で直す必要があります。また、水温管理も重要です。夏場に稲が登熟する際、水の温度を下げるため、日の当たらない夜間に水を入れる作業を行う必要があります。さらに、村内に住み着いている多くの猪や鹿を、工夫した罠で駆除しながら、田んぼを守る必要もあるのです。こうして我が子のように日々世話をすることで、西米良が誇る米が生まれるのです。

